

琉球大学学術リポジトリ

サンゴ礁島嶼科学の構築と国際的な教育研究拠点形成

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム広報委員会 公開日: 2008-08-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土屋, 誠, Tsuchiya, Makoto メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/6927

サンゴ礁島嶼科学の構築と国際的な教育研究拠点形成

拠点リーダー 土屋 誠

本学の21世紀COEプログラムが最終年度を迎え、まとめの時期にさしかかっています。COEプログラム終了後は大学独自の活動の継続と進化が求められていますので、私たちは本プログラムの成果を将来の琉球大学の将来計画にどのように生かすべきか考える必要があります。最終年度は新たな門出の準備のための年度でもあるのです。

「サンゴ礁」あるいは「島嶼」は琉球大学のキーワードです。私が言い続けてきたことは、このキーワードは本学全体を象徴するものであり、決して特定の分野に限定されるものではないということです。「あまみきよ」の第6号で岩政学長が述べられているように、サンゴ礁・島嶼に関する研究分野は極めて広範なものであり、関連する多くの学問分野が統合した研究教育体制を構築することにより琉球大学の特徴ある学問分野の存在が一層明確なものになると信じています。

その中で、21世紀COEプログラムを進めている仲間たちはその牽引車となり、将来においても重要な役割を果たすべきと考えます。私たちは国際的に活躍できる若手研究者の育成を目指し、数々の国際的活動に参加してきました。独自の活動として毎年実施している国際サマープログラムは着実に効果をあげています。参加者は相互に刺激を受け、着実に成長しています。サマープログラム終了後、複数の参加者が本学の大学院に入学し、勉学に励んでいます。

幾つかの国際的な活動にも積極的に参加してきました。国際シンポジウムは諸外国の研究者と交流し、多くの情報を得るよい機会です。沖縄でのシンポジウム開催に加えて、外国に出かけてシンポジウムを開催することにもチャレンジしました。フレンチポリネシアではフランス高等教育研究院、及びカリフォルニ

ア大学バークレー校の皆さんと交流しました。国立シンガポール大学との共同で開催したシンポジウムでは密度が高い議論をすることができ、引き続き交流を進めるべく準備が進められています。第21回太平洋学術会議の運営に多方面から参加したことも素晴らしい経験でした。

COEプログラムが開始される以前から、本学では英語による講義をおこなう海洋科学分野の留学生のための特別コース(現在は、留学生の特別配置による亜熱帯海洋科学国際プログラム)が理工学研究科に設置されており、海外から多くの留学生を受け入れてきました。多くの修了生は、帰国後、母国の大学で活発に活動しています。これは若手研究者が順調に育成されていることを意味しますので、本学には既に国際的な教育拠点が形成されているとよいでしょう。最近、ダブルディグリーあるいはサンドイッチプログラムに関する議論が盛んに行われています。今までとは異なる学生交流の形態ですが、真の意味での相互交流が実現し、交流の輪が発展することが期待されます。

国際的な教育研究拠点とは、本学の大学院で学びたいという希望が諸外国から寄せられ、多くの大学院生が集まり、活発な研究活動が展開される機関を指します。これまでの経験を生かしつつ、より明確な拠点の構築を目指して今後とも努力しなければなりません。当然ながら大きな研究成果も期待されています。基礎となるのは私たちの個々の研究教育活動であることは言うまでもありませんが、それらが連携して大きなプログラムとなるよう努力したいものです。

これまでに実施してきた多様な活動を今後も継続することが琉球大学の発展に貢献すると信じています。